昭和29年4月10日　第3種郵便物認可　第2149号

迅速!! 確実!!
吉備交通　サンタクシー　大和交通
共同配車センター
24時間配車 ☎(086)200-0777

中備新聞

12月25日月曜日
2006年（平成18年）

発行者
中備新聞社
〒700-0821 岡山市中山下1-1-2
☎ (086) 233-6670
発行日 5・15・25日
郵便振込口座 01260-2-35285
© 中備新聞社 2006

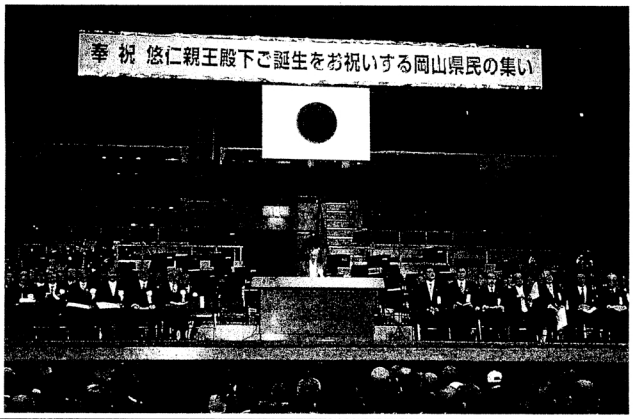
うどん
名げんげん玄
〒703-8282 岡山市平井6-7-17
☎(086)273−5472

悠仁親王さまのご誕生を祝う
皇室のご聖徳に感謝の声明

岡山武道館に2,000人が集う

秋篠宮同妃両殿下と皇居・御所を訪れ、笑顔を見せられる悠仁親王殿下

十一月十四日午前、皇居・御所



秋篠宮悠仁（ひさひと）親王殿下のご誕生をお祝いする岡山県民の集いが、12月17日岡山市いずみ町の県武道館において開かれ、県下各地から約二千人が参加した。

まず県神社庁河本貞紀副庁長が「41年ぶりに皇室に男児がお生れになったことは、皇位の継承問題が議論を生んでいるとき、まさにわが皇室の弥栄（いやさか）を願う天の示唆にほかならない。皇室を中心とした日本の伝統と文化を継承することを希求する私たちの大きな喜びであり、悠仁殿下のお健やかなご成長を心からお祈りしたい」と、主催団体を代表して挨拶。

続いて、県民からのお慶びの言葉として、伊賀雅之氏ほか12名が提言を発表。（提言内容は下掲。発表者名略）

「万世一系の重みを踏まえながら、今後とも皇室の諸問題について、尚一層真摯に取り組む」との声明を採択した。（声明内容は下掲）

のち、ジャーナリスト櫻井よしこ氏の「日本人よ気高く、強く、美しくあれ～誇りある日本の伝統」と題した記念講演が行なわれ、岡山学芸館高校吹奏楽部の演奏、和気清麻呂太鼓で締めくくった。

日本人よ、気高く強く、美しくあれ

櫻井よしこ氏が講演

東西の冷戦が終り、世界は一見平和になったように考えられるが、民族紛争は多発している。それぞれの国民が自国を守ろうとする現れだ。

国を守るということは国民の神聖な義務だが、その心がまえは、国の歴史を知ることに始まる。私はハワイ大学に留学した。63ヶ国から集まっている学生の間で、自国の歴史について語る機会があったが、私は自国の（日本の）歴史について、あまり知っていないことに恥かしい思いをした。発展途上国からきた学生は、自国の歴史についてよく学んでいたことに一種の畏敬（いけい）（うやまい、心服すること）の念を持ったほどだ。

日本の歴史は神話に始まり皇室と国民との深い絆の物語りである。一部の人は、これを非科学的だ、平等という基本的人権に反するとしているが、この神話は、私たちの祖先のあこがれ、想い、夢、希望を託したものであって、民族のロマンだ。

古来、日本人は「和」を中心にしてきた。一千数百年以前につくられた聖徳太子の十七条の憲法でも、その基本は「和をもって尊しとす」とある。世界中が、戦いと殺戮に明け暮れていた時代、わが国は、話し合い、「和」を高らかに宣言している。

仏教が中国大陸を経て日本に伝わったのは衆知のとおり。

このとき、わが国には神道があり、異文化の受け入れには議論もあったが、これを受け入れた。他を受け入れる寛容の心、新しい文化を学ぼうとする日本の姿だ。

ハンチントンという学者が、現代文明は8つの文明からなり立っているといったが、その一つに日本文明をあげている。

キリスト文明、イスラム文明、ヒンズー文明といったものであるが、殆んどが多くの民族が合体して作られたものであり、日本文明のみは日本独自の英知によって生みだされたものであって、むしろ外国の方が高く評価している。

皇室には権位はあるが権力を持たない。権力を持たれず常に国民の為に宸襟（天皇の心）をお使いになっていられる。

戦後、臣籍に降下されたある皇族の方の話によると「国民が皇室の人切さを思うときは、50年、100年の一度の割合いかも知れないが、皇室を中心にしたとき、国は栄える」とは至言だ。歴史をふりかえるとまさに真実である。この国の美しさを見直したい。

（在責筆者）

強く、美しくあれ～誇りある日本の伝統」と題した記念講演が行なわれ、岡山学芸館高校吹奏楽部の演奏、和気清麻呂太鼓で締めくくった。

県民からのお慶びのことば（抄）

皇室に41年ぶりに男のお子様がご誕生になった。皇位継承第三位の秋篠宮悠仁親王さまのご誕生は皇室の伝統が未来へと結ばれる大きな希望であり、ここで自分の生まれた国がらに感謝したい。

世界に、現在約30の君主国があるが、その中で最も古い歴史を持ち、万世一系二千六百有余年、一二五代連綿と護持された君主国は日本以外どこにもなく、胸を張って伝統を大切にしたい。

昨年12月、留学生の異文化体験発表コンテストで、セルビアの学生が、「岡山国体のとき、皇族方に対する歓迎ぶりは外国人には想像できない敬慕と親愛に満ちていた。」と日本の心を学んだという。

日本の伝統や文化に全く敬意を持たない人たちによって皇室典範改定の動きがあり、万世一系が否定されようとしたが、悠仁親王がご誕生されこの企てがふき飛んだ。まさに神仏の加護といえる。

過去十代八方の女性天皇が即位されたが、いずれも男系の皇位継承のための日本人の知恵であった。この先人の叡智と努力を、我々の時代で無にしてはいけない。皇室の伝統は世界の宝だ。

民族の中心であり、祖霊を祀る儀式を継承することは法律や理屈で規制したり変更するものではない。ひとときの領地や権力を持った者もいたが権位は継承できなかった。この国柄が日本の原点だ。

台湾出身の金美齢さんは「日本には神話がありその神話につながる皇室がある。伝統や文化を破壊することは一日でできる。この文化を三千年近く守り続けた日本の伝統は羨ましい」と述べた。

昨年の国体のとき、天皇皇后両陛下をはじめ多くの皇族方がご来県された。日の丸の小旗を振りお迎えした県民にお応えになる皇族方の笑顔を見た瞬間、身が震えるような感動をいただいた。

愛国心はどの民族、国民も持つのが当たり前。だがわが国は国家、皇室伝統、誇りというものを軽視しようとする風潮があり、これほど不幸なことはない。こうしたことを断じて許してはならない。

祖先や自然への感謝や歴史や文化を誇りにもちその一員であるという自覚することが道徳心である。この道徳の復活なくして日本の未来はない。皇室の伝統、民族の誇り、美しい国柄を守り続けたい。

皇室は日本国民の精神的な支柱である。この継承が男性に限られているのは日本だけでなく、ローマ法皇、イスラム教、ユダヤ教も同じだ。これは理屈を超越した不文律であり神聖な伝統だ。

私の今日あるのは生み育んでいただいた両親のおかげであり、親からその親へと脈々とその流れが続いている。その祖先への感謝。祖国の歴史や文化に誇りを持って、子孫に継承する責任を感じた。

声明

燦然と光り輝く九月六日、秋篠宮家に第三子として悠仁親王殿下がご誕生になった。ここにあらためて、

天皇皇后両陛下、皇太子同妃両殿下、秋篠宮同妃両殿下に対し奉り、心よりのお慶びを申し上げるとともに、悠仁親王殿下のお健やかなご成長を乞い祈み奉る次第である。

皇室にとって秋篠宮殿下以来、実に四十一年ぶりとなる男子皇族のご誕生であり、皇太子殿下、秋篠宮殿下に続く皇位継承順位第三位であらせられる。

先の通常国会では、伝統的な皇位継承の原則に重大な変更をもたらす内容の皇室典範改定論議が政治課題として急速に取り上げられ、心ある国民は深い憂慮を禁じえなかったが、この度の親王殿下ご誕生によって拙速ではなく、小泉前総理の私的諮問機関にすぎない有識者会議の結論に惑わされることなく、更に更に、慎重な議論を行える環境を得ることが出来たことは、天佑とも申すべき、誠にありがたいことである。

神代にまで遡りし百二十五代、二千年以上の歴史を有する世界に比類なき尊いご存在である日本の皇室は、我々日本人の誇りであり、かけがえのない至宝である。このことをあらためて、我々日本人がしっかりと認識し、磐石ならしめ、未来の日本人に継承することこそが、現代を生きる我々一人ひとりの責任であり、使命である。

我が国の伝統・文化の中心である皇室の御聖徳によってお守りいただいている幸せに衷心より感謝の誠を捧げつつ、その御聖恩に少しでもお報いさせていただくために、万世一系の重みを踏まえながら、今後とも皇室の諸問題について、尚一層真摯に取り組み、皇室をお守り申し上げる所存である。

右、声明する。

平成十八年十二月十七日

「悠仁親王殿下ご誕生をお祝いする岡山県民の集い」

皇室を守ろう岡山県民集会